

令和 6 年 5 月 29 日現在

機関番号：62618

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19H00530

研究課題名(和文) 消滅危機方言のプロソディーに関する実証的・理論的研究と音声データベースの構築

研究課題名(英文) Empirical and Theoretical Studies of Endangered Prosodic Systems of Japanese and the Construction of Prosody Database

研究代表者

窪園 晴夫 (Kubozono, Haruo)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・客員教授

研究者番号：80153328

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,300,000円

研究成果の概要(和文)：日本語・琉球語諸方言の調査研究により特に次の点を明らかにした。(1)岩手県中野方言は「降り核」を持つ方言である。(2)天草本渡方言では相手が見えるかどうかによって呼びかけプロソディーのパターンが異なる。(3)鹿児島方言と甑島方言の呼びかけイントネーションではトーンとモーラが対応し、トーンの数に比例して語末母音の伸長が起こる。(4)琉球久米島儀間方言の外来語はフットを導入すれば二型アクセント体系と分析できる。(5)南琉球多良間方言の文末イントネーションは韻律語を単位として実現する。(6)南琉球黒島方言のアクセント体系は二型体系への変化の最終段階にある三型体系である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本語・琉球語を特徴づけていた伝統的な方言体系が日本各地で急速に失われつつあり、その大半が未調査のまま消滅の危機に瀕している中、現地調査によって消滅危機方言の特徴を記録・分析・保存することは言語研究において喫緊の課題となっている。とりわけアクセントやイントネーションといったプロソディーの特徴は後世に文字で残すことが困難である。危機方言のプロソディーに関する調査研究は地域文化を残すという意味でも社会的な意義が大きい。

研究成果の概要(英文)：Our fieldwork on Japanese and Ryukyuan dialects has revealed many facts including the following: (1) The Nakano dialect in Iwate Prefecture has a descending accent kernel; (2) The Amakusa-Hondo dialect exhibits different prosodic patterns in vocative intonation depending on whether the speaker can actually see the hearer; (3) The vocative intonation in the Kagoshima and Koshikijima dialects displays a correspondence between the mora and the tone, thus triggering final-vowel lengthening according to the number of tones assigned to the final syllable; (4) In the Kumejima-Gima dialect in Ryukyuan, accent patterns found in loanwords can be analyzed as a two-pattern system if the notion of the foot is introduced; (5) The sentence-final intonation in the Taramajima dialect in southern Ryukyuan manifests itself in the domain of prosodic word; (6) The accent system of the Kuroshima dialect in southern Ryukyuan is a three-pattern system in its final transition to a two-pattern system.

研究分野：言語学

キーワード：アクセント イントネーション 日本語 琉球語 危機言語 プロソディー

1. 研究開始当初の背景

世界で話されている6,000~7,000の言語の多くが消滅の危機に瀕しており、100年後にはその90~95%が消滅するとも言われている(Krauss, M. 1992. 'The world's languages in crisis', *Language* 68-1, pp.4-10)。地球上から1週間に1つずつ言語が消えていくという推測であるが、日本の方言も例外ではない。標準語教育とマスメディアの普及によって、日本語・琉球語を特徴づけていた伝統的な方言体系が日本各地で急速に失われつつある。

このような「消滅危機方言」の中でも日本の周辺部分で話されている方言 琉球(語)を含む島嶼の方言 はとりわけ危機度が高く、10~20年後には伝統的な方言話者がいなくなると推測される方言も少なくない。これらの方言の多くは十分な調査研究がなされておらず、またアクセント(語のプロソディー)に関する調査はなされていても、イントネーション(文のプロソディー)や、イントネーションと統語構造・情報構造との関係にまでは調査研究が及んでいないのが現状である。日本語・琉球語はプロソディーの多様性で知られている言語であるにもかかわらず、このままでは体系的なデータ収集ができないまま、日本列島から多様なプロソディー体系が消滅していくことが危惧されている。

2. 研究の目的

日本には他の言語に例を見ないほど多様なアクセント体系が存在する。近年の調査研究によってその一部が解明されつつあるが、研究の進歩をはるかに超える速度で伝統的な方言が失われてきており、特に呼びかけ文や各種疑問文のイントネーション(文プロソディー)についてほとんど調査が行われぬまま消滅しつつある方言が少なくない。本研究はこのような状況を踏まえて、日本語および琉球語(旧琉球方言)の「消滅危機方言」に焦点を絞り、そのプロソディーの諸相(語アクセント体系、イントネーション、アクセントとイントネーションの相互干渉、統語構造や情報構造との関係等)を明らかにする。調査によるデータ収集と理論的分析を両輪として、対照言語学・言語類型論の視点も交えて分析を行い、その成果を研究論文として公刊すると同時に、消滅しつつある諸方言の音声をデジタル化し、可能な限りウェブ公開する。

3. 研究の方法

次の4つの作業を並行して研究を進めた。

- (1) できるだけ多くの危機方言について、プロソディーに関する体系的な調査研究を行い、十分なデータを収集する。
- (2) そのデータを世界で行われている対照言語学や言語類型論の研究を踏まえて理論的な観点から分析し、日本語・琉球語の特徴を明らかにする。
- (3) (2)の分析をもとに、日本語・琉球語の研究が世界の言語研究にどのように貢献するかを考察し、国内外の研究者に発信する。
- (4) (1)から得られた各方言の貴重な音声データをデジタル化し可能な限り公開する。

4. 研究成果

5年間の研究期間の初年度末(2019年度末)にコロナ禍が発生し、それ以降3年間にわたって十分な方言調査を行うことができなかった。その期間には既に収集していた調査データの分析と論文執筆を集中的に行った。研究期間の最後の1年半はコロナ禍が収束したため、それまでの遅れを取り戻すべく現地調査を行い、一定の音声データを得ることができた。後半3年間に得られ

た成果は次の通りである（以下、方言を日本列島の北から南へと並べる）。

〔2021年度〕

（1）岩手県田野畑村アクセントについて、形容詞を対象に主要活用形を記述し、その特徴を明らかにした。

（2）九州の天草本渡方言において相手が見えるかどうかによって呼びかけプロソディーのパターンが異なることを示した。また、自律分節音韻論の枠組みに基づいて異なるパターンに対応する音声表示を提案した。

（3）鹿児島方言と甕島方言、東京方言の疑問イントネーションと呼びかけイントネーションを分析し、トーンとモーラが対応していることと、トーンの数に比例して語末母音の伸長が起こることを明らかにした。

（4）久米島方言（沖縄県）について、用言および3～6モーラ的那覇方言体言語彙のアクセントを島内主要5地点で記述・公開した。

（5）琉球各地のアクセント体系の比較によって琉球祖語の韻律体系の仮説を提示した。また北琉球の一部の方言に過去に生じた音節構造の変化の持つ歴史的意義を明らかにした。

（6）南琉球多良間方言の文末イントネーションは韻律語を単位として実現することを明らかにし、また、池間方言が「上げ核」の特徴をもつことを指摘した。

（7）日本語諸方言における疑問・不定表現に見られる韻律パターンが、(i)アクセントの対立、(ii)アクセントの交替、(iii)交替領域の拡張という基準によって整理できることを示し、これらの有無に含意関係があることを明らかにした。

（8）方言の自発音声におけるイントネーションを分析するために、方言による電話会話コーパスを作成した。

〔2022年度〕

（1）茨城県高萩市下君田方言の自然談話を収録し、約30分ぶんの音声・転記テキスト・標準語訳のデータセットを作成し一般公開した。

（2）鹿児島方言と甕島方言の呼びかけイントネーションの調査・実験研究をもとに、語アクセントがイントネーションによって変容する様を明らかにした。

（3）喜界島小野津方言の韻律的単位の認定において長音がどのように関わるかを明らかにした。

（4）琉球久米島儀間方言の外来語アクセントがフットを導入すれば二型アクセント体系と分析できることと、同比嘉方言の複合名詞は特異な複数パターンが併存することを明らかにした。

（5）九州と琉球（特に宮古諸島）の語アクセントを分析し、日琉語の歴史的変遷の考察におけるそれらの重要性を明らかにした。

（6）南琉球多良間方言、池間方言、与那覇方言のアクセントと本土諸方言のアクセントとを比較し、各方言の類型的な韻律特徴を明らかにした。

（7）南琉球宮古語池間方言において句末音調は疑問文と平叙文を区別する機能を欠くことを明らかにした。

（8）日本語のダウンステップにおける実験を行い、品詞によるダウンステップの実現およびリスナーの知覚の変化を明らかにした。

（9）日本語や諸言語における声援の音韻構造を分析し対照することによって、分節方法の異同が生じるメカニズムを明らかにした。

（10）日本語の音節の時間制御に関する実験研究をもとに、有声性の対立に伴う音節の時間制御の変化が有声性の知覚の手がかりになることを明らかにした。

〔2023年度〕

(1) 岩手県中野方言が日本語諸方言の中で確実に「降り核」を持つ最初の方言であることを明らかにした。

(2) 名古屋方言について、「疑問詞+助数詞」を含む文にデフレージングと下降音調が生起するメカニズムを明らかにした。

(3) 長崎方言のアクセントデータベースを試作し、下降調の音声実現の検証を通じ、同方言の特殊拍には種類を問わず自立性があることを検証した。

(4) 喜界島小野津方言のアクセント単位の拡張現象において、特殊拍がどのように関わるかを明らかにした。

(5) 南琉球与那覇方言についてアクセントの弁別特徴と歴史的成立について考察し、あわせて宮古諸方言アクセントが単純な三型体系に集約できる仮説を提唱した。

(6) 南琉球の宮古諸島と八重山諸島の韻律体系の特徴を記述・考察し、プロソディー研究におけるそれらの理論的意義を明らかにした。

(7) 南琉球八重山語黒島方言のアクセント体系が二型体系への変化の最終段階にある三型体系であることを定量分析を通じて明らかにした。

(8) 語形成規則やテキストセッティングの分析をもとに、日本語においてモーラと音節が補完的な役割を果たしていることを明らかにした。

(9) 促音に関する実験研究をもとに、日本語の音節量の知覚にスペクトル情報や刺激提示方法など、持続時間以外の要因が影響することを明らかにした。

(10) Clark(1987) Japanese as a tone languageをレビューし、その現代的価値について議論した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計68件（うち査読付論文 56件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 25件）

1. 著者名 窪園晴夫	4. 巻 -
2. 論文標題 音韻論から見た「語」の特性	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 類型論から見た「語」の本質	6. 最初と最後の頁 239-269
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 35
2. 論文標題 岩手県田野畑村方言 4 モーラ体言のアクセント資料(3)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 ことばとくらし	6. 最初と最後の頁 19-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 87
2. 論文標題 岩手県洋野町中野方言のアクセント調査報告 降り核の方言	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 国語研究	6. 最初と最後の頁 1-43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 47
2. 論文標題 久米島方言の外来語のアクセント資料(2) 嘉手苅方言	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 1-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 46
2. 論文標題 久米島方言のアクセント資料(7) 比嘉方言(その2)	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 南島文化	6. 最初と最後の頁 155-173
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松森晶子	4. 巻 2
2. 論文標題 宮古語多良間方言の修飾構造体のプロソディー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 五十嵐陽介・山田真寛・大島 一・セリック・ケナン(編) 『日琉諸語の記述・保存研究』	6. 最初と最後の頁 19-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松森晶子	4. 巻 73
2. 論文標題 八重山語小浜方言の韻律特徴と韻律体系変化のプロセス	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本女子大学紀要 文学部	6. 最初と最後の頁 81-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松森晶子	4. 巻 30
2. 論文標題 八重山語小浜方言の三型体系における各韻律型の所属語彙	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本女子大学大学院文学研究科紀要	6. 最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 諸方言アクセント研究における定量分析 「聞こえる・聞こえない」の水掛け論からの脱却	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 5-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐陽介	4. 巻 1
2. 論文標題 南琉球宮古語池間方言の疑問文イントネーション	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日琉諸語の記述・保存研究	6. 最初と最後の頁 24-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/0002000046	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹安大	4. 巻 55
2. 論文標題 促音知覚における摩擦の音色の影響の音声学的基盤について	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 福岡大学人文論叢	6. 最初と最後の頁 563-609
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青井隼人	4. 巻 10
2. 論文標題 声調言語としての日本語	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haruo Kubozono	4. 巻 -
2. 論文標題 Interactions between lexical and postlexical tones: Evidence from Japanese vocative prosody.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Prosody and Prosodic Interfaces	6. 最初と最後の頁 249-281
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oso/9780198869740.003.0009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haruo Kubozono	4. 巻 4
2. 論文標題 Japanese prosody in communication	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Selected Papers from the 46th Meeting of the Kansai Linguistic Society	6. 最初と最後の頁 165-177
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 23
2. 論文標題 岩手県田野畑村方言の用言アクセント資料(4) : 形容詞(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 34
2. 論文標題 岩手県田野畑村方言 4 モーラ体言のアクセント資料(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 ことばとくらし	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 45
2. 論文標題 久米島方言のアクセント資料(6) 比嘉方言	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 南島文化	6. 最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 86
2. 論文標題 岩手県田野畑村方言 4 モーラ体言のアクセント資料(2)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 国語研究	6. 最初と最後の頁 1-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 46
2. 論文標題 久米島方言の外来語のアクセント資料(1) 儀間方言	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 1-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松森晶子	4. 巻 72
2. 論文標題 佐賀県鹿島市の二型アクセント体系	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本女子大学紀要 文学部	6. 最初と最後の頁 19-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新田哲夫	4. 巻 15
2. 論文標題 南琉球多良間方言アクセンの弁別特徴	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 金沢大学歴史言語文化系論集 言語・文学篇	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金正琳, 田中真一	4. 巻 26
2. 論文標題 チャハルモンゴル語定型歌「ホルボー」の テキストセッティングと音韻・形態制約	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 23-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐陽介	4. 巻 163
2. 論文標題 現代九州諸方言における旧上二段動詞の「下二段化」は九州・琉球祖語仮説を支持するか?	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 言語研究	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.163.0_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yosuke Igarashi	4. 巻 8(1)
2. 論文標題 Reconstruction of Ryukyuan tone classes of Middle Japanese Class 2.4 and 2.5 nouns	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Open Linguistics	6. 最初と最後の頁 232-257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1515/opli-2022-0193	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yosuke Igarashi	4. 巻 -
2. 論文標題 Prosodic phrasing, long-distance rise, and structural prominence-marking in Japanese dialects without lexically contrastive tones	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 H. Kubozono, J. Ito, and A. Mester (eds.) Prosody and Prosodic Interfaces (Oxford University Press)	6. 最初と最後の頁 282-297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oso/9780198869740.003.0010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 竹安大	4. 巻 26
2. 論文標題 子音の有声性及び母音の音韻長の判断に対する隣接要素の影響	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 音韻研究	6. 最初と最後の頁 59-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Manami Hirayama, Hyun Kyung Hwang, Takaomi Kato	4. 巻 7(25)
2. 論文標題 Lexical category and downstep in Japanese	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Languages	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/languages7010025	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hyun Kyung Hwang, Manami Hirayama, Takaomi Kato	4. 巻 -
2. 論文標題 Perceived prominence and downstep in Japanese	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Proceedings of Interspeech 2022	6. 最初と最後の頁 1318-1321
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 窪園晴夫	4. 巻 -
2. 論文標題 プロンディーの多様性と音声コミュニケーション	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 言語コミュニケーションの多様性	6. 最初と最後の頁 183-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 San Duanmu and Haruo Kubozono	4. 巻 -
2. 論文標題 Early insights in phonology: East Asian tradition	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Oxford History of Phonology	6. 最初と最後の頁 64-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oso/9780198796800.003.0004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 窪園晴夫	4. 巻 -
2. 論文標題 鹿児島方言のアクセントの弁別的特性について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 プロンディー研究の新展開	6. 最初と最後の頁 169-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 33
2. 論文標題 岩手県田野畑村方言の用言アクセント資料(3) 形容詞(1)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 ことばとくらし	6. 最初と最後の頁 11-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 44
2. 論文標題 久米島方言のアクセント資料(5) 具志川方言	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 南島文化	6. 最初と最後の頁 109-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 85
2. 論文標題 久米島方言の用言のアクセント資料	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語研究	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 45
2. 論文標題 久米島方言の体言のアクセント資料 那覇語彙(2)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 19-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松森晶子	4. 巻 -
2. 論文標題 琉球祖語の韻律体系について	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 プロゾディー研究の新展開	6. 最初と最後の頁 191-213
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松森晶子	4. 巻 71
2. 論文標題 沖縄語首里方言における音節構造の変化と北琉球祖語の母音の音価推定	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本女子大学紀要 文学部	6. 最初と最後の頁 45-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松浦年男	4. 巻 -
2. 論文標題 天草市本渡方言における 呼びかけイントネーションの言語学的指定	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 プロンディー研究の新展開	6. 最初と最後の頁 127-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐藤久美子	4. 巻 -
2. 論文標題 不定語のアクセント・イントネーション - 日本語諸方言におけるパリエーション -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 プロンディー研究の新展開	6. 最初と最後の頁 108-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐陽介, 廣川純子	4. 巻 22
2. 論文標題 Corpus of Japanese Telephone Conversation at Hiroshima University: Design and Current Status	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 183-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00003516	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐陽介	4. 巻 -
2. 論文標題 分岐学的手法に基づいた日琉諸語の系統分類の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 フィールドと文献から見る日琉諸語の系統と歴史	6. 最初と最後の頁 17-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 窪園晴夫	4. 巻 -
2. 論文標題 日本語のアクセントと言語類型論	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語研究と言語理論から見た言語類型論	6. 最初と最後の頁 2-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sun-Ah Jun, Haruo Kubozono	4. 巻 -
2. 論文標題 Prosody Across the World: Asian Pacific Rim	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Oxford Handbook of Language Prosody	6. 最初と最後の頁 355-569
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/oxfordhb/9780198832232.013.23	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Haruo Kubozono	4. 巻 26
2. 論文標題 Default word prosody and its effects on morphology	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese/Korean Linguistics	6. 最初と最後の頁 19-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 窪園晴夫	4. 巻 39
2. 論文標題 年号の音韻構造	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 42-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 19
2. 論文標題 北奥方言の外来語のアクセント資料	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 47-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00002829	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 6
2. 論文標題 那覇市方言の名詞のアクセント体系 大湾政和の論著から読み取る	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 方言の研究	6. 最初と最後の頁 5-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 32
2. 論文標題 岩手県田野畑村方言の用言アクセント資料(1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 ことばとくらし	6. 最初と最後の頁 7-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 43
2. 論文標題 久米島方言のアクセント資料(4)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南島文化	6. 最初と最後の頁 105-121
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 20
2. 論文標題 岩手県田野畑村方言のアクセント調査報告 北奥方言アクセント祖体系との関連で	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 115-147
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00003096	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 84
2. 論文標題 岩手県田野畑村方言の用言アクセント資料(2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語研究	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松森晶子	4. 巻 70
2. 論文標題 北琉球祖語の祖形再建のこころみ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本女子大学紀要 文学部	6. 最初と最後の頁 11-32
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松浦年男	4. 巻 158
2. 論文標題 天草市深海方言の漢語に見られる有声阻害重子音	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 言語研究	6. 最初と最後の頁 29-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11435/gengo.158.0_29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松浦年男	4. 巻 58
2. 論文標題 天草市本渡方言のアクセント資料(2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北星学園大学文学部北星論集	6. 最初と最後の頁 29-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 窪園晴夫	4. 巻 -
2. 論文標題 語形成とアクセント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 レキシコンの現代理論とその応用	6. 最初と最後の頁 49-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 窪園晴夫	4. 巻 -
2. 論文標題 モダリティとイントネーション	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 データにもとづく日本語のモダリティ研究	6. 最初と最後の頁 125-142
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haruo Kubozono	4. 巻 12
2. 論文標題 Neutralizations in vowel length and word accent in Japanese	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Kobe Papers in Linguistics	6. 最初と最後の頁 71-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jungyun Seo, Sahyang Kim, Haruo Kubozono, and Taehong Cho	4. 巻 146
2. 論文標題 Preboundary lengthening in Japanese: To what extent does lexical pitch accent and moraic structure matter?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Journal of the Acoustical Society of America	6. 最初と最後の頁 1817-1823
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1121/1.5122191	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 上野善道	4. 巻 42
2. 論文標題 久米島方言のアクセント資料 (3)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 南島文化	6. 最初と最後の頁 193-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 44
2. 論文標題 久米島方言の体言のアクセント資料 那覇語彙 (1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 189-241
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 83
2. 論文標題 北奥方言の昇り核の由来	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語研究	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 58
2. 論文標題 カ行鼻音考	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 國學院大學大学紀要	6. 最初と最後の頁 25-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 18
2. 論文標題 北奥方言の動詞のアクセント資料 (2)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 35-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00002541	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 31
2. 論文標題 津軽方言の形容詞のアクセント	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ことばとくらし	6. 最初と最後の頁 11-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上野善道	4. 巻 17
2. 論文標題 北奥方言の動詞のアクセント資料(1)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 101-130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15084/00002226	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Akiko Matsumori	4. 巻 29
2. 論文標題 A Prosodic Unit, Recursive Structure and Nature of Accent of Miyako Ryukyuan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 The Linguistic Review	6. 最初と最後の頁 51-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松森晶子	4. 巻 15
2. 論文標題 奄美大島南部・瀬戸内町における重音節発生の歴史的経緯 狭母音化との 相対年代から考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語の研究	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松浦年男	4. 巻 57(2)
2. 論文標題 天草市本渡方言のアクセント資料(1)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北星学園大学文学部 北星論集	6. 最初と最後の頁 93-111
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計70件（うち招待講演 16件 / うち国際学会 16件）

1. 発表者名 Haruo Kubozono, Ai Mizoguchi
2. 発表標題 Text-to-tune alignment in Japanese "Happy Birthday to You"
3. 学会等名 20th International Congress of Phonetic Sciences (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Haruo Kubozono
2. 発表標題 Mora-syllable interactions in Japanese
3. 学会等名 上智大学言語学会第37 回年次大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Haruo Kubozono
2. 発表標題 Syllable-mora interactions in Japanese: Evidence from phonology, morphology, acquisition, and text-setting
3. 学会等名 Edinburgh University Phonetics/Phonology Workshop (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松森晶子
2. 発表標題 南琉球の三型体系発見の持つ理論的意義 特に韻律階層に焦点を当てて
3. 学会等名 日本語学会 第167回大会ワークショップ 「宮古・八重山諸島のアクセント研究の新展開：その類型と歴史」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松森晶子
2. 発表標題 琉球八重山祖語の声調体系と分派した諸方言の韻律特徴 重起伏音調のもたらしたもの
3. 学会等名 第19回音韻論フェスタ
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 新田哲夫
2. 発表標題 南琉球宮古島与那覇方言のアクセント体系と弁別特徴
3. 学会等名 日本方言研究会第116回研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 新田哲夫
2. 発表標題 動的音韻解釈からみた南琉球宮古諸方言の三型アクセント体系
3. 学会等名 日本言語学会第167回大会ワークショップ
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松浦年男
2. 発表標題 長崎方言における特殊モーラの自立性：定量的分析
3. 学会等名 第19回音韻論フェスタ
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 金正琳、田中真一
2. 発表標題 チャハルモンゴル語の声援 におけるテキストセッティング
3. 学会等名 関西言語学会 (KLS) 第48回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中真一
2. 発表標題 日本語2ビート声援のAlignmentについて：最適性理論による分析
3. 学会等名 関西音韻論研究会 (PAIK)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 日琉諸語の韻律体系における culminativity と obligatoriness
3. 学会等名 令和5年度 第1回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」合同研究発表会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鈴木成典 , 鎌野慈人 , 坂本誓 , 鎌倉欧亮 , Seunghun Lee , Yu Yan , Jeremy Perkins , 五十嵐陽介
2. 発表標題 アーカイブデータを利用した言語研究とその応用可能性
3. 学会等名 言語資源ワークショップ2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 日本語・琉球語諸方言におけるアクセント型を数える：N型アクセントと多型アクセントとを区別することはできるか？（「日本・琉球語諸方言におけるイントネーションの多様性解明のための実証的研究」プロジェクト紹介）
3. 学会等名 Evidence-based Linguistics Workshop 2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金英周，五十嵐陽介，宇都木昭，酒井弘
2. 発表標題 統語構造の証拠として韻律パターンを使用することの有効性－現代韓国語の属格主語構造を一例として－
3. 学会等名 Evidence-based Linguistics Workshop 2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 南琉球宮古語池間方言における韻律的単位「韻律語」の特性
3. 学会等名 第167回日本言語学会大会ワークショップ「宮古・八重山諸島のアクセント研究の新展開：その韻律単位と類型」
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 竹安大・中井龍斗・香月奎二・石橋頌仁
2. 発表標題 音声知覚の実験手法に関する一考察：時間経過と刺激提示順序の影響
3. 学会等名 福岡言語学会2023年度第3回例会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Haruo Kubozono
2. 発表標題 Diversity of Lexical Pitch Accent Systems in Japanese
3. 学会等名 NINJAL-UHM Workshop (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 窪園晴夫、溝口愛
2. 発表標題 日本語のText-to-tune alignmentについて
3. 学会等名 音韻論フェスタ2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松森晶子
2. 発表標題 宮古諸島における『韻律領域の拡張』と多良間島のプロソディー
3. 学会等名 国立国語研究所共同研究プロジェクト 2022年度第1回合同研究会「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」(オンライン)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松森晶子
2. 発表標題 日琉祖語の韻律体系再建に向けて 今後の課題
3. 学会等名 日本語学会第164回大会ワークショップ「日琉祖語の再建に向けての新たな展望：琉球諸語の視点から」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松森晶子
2. 発表標題 汎宮古文法（韻律部門）の青写真を描く 宮古諸島のプロソディーの多様性解明にむけて
3. 学会等名 国立国語研究所第5回プロトジャポニック研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 新田哲夫
2. 発表標題 南琉球のことばの旋律
3. 学会等名 言語系統樹ワークショップ（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Shin'ichi Tanaka
2. 発表標題 XX Gambare: The phonological structure of Japanese two-beat chants
3. 学会等名 Oxford-Kobe Linguistics Symposium（国際学会）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 田中真一
2. 発表標題 名古屋方言の疑問詞・不定語を含む文の音調について
3. 学会等名 Kobe-Oxford 言語学コロキウム3（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田中真一
2. 発表標題 音韻研究と日本学・日本語教育
3. 学会等名 島津製作所講演会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 金正琳、田中真一
2. 発表標題 チャハルモンゴル語「ホルボー」のテキストセッティングと音韻制約
3. 学会等名 日本音韻論学会春期研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yosuke Igarashi
2. 発表標題 Controversy about the phylogenetic position of Kyushu and Ryukyuan languages: Current situation and future prospects
3. 学会等名 The Origin and Spread of the Japonic Languages: Putting Together Linguistics, Genetics, and Archaeology (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 日琉祖語四声仮説：最少の声調と最少の音変化でアクセント体系の多様性を説明するために
3. 学会等名 第4回プロトジャポニック研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 琉球語・八丈語以外の非中央語系ジャポニック諸語の系統
3. 学会等名 言語系統樹ワークショップ
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 日本・琉球語諸方言におけるイントネーションの多様性解明のための実証的研究
3. 学会等名 Evidence-based Linguistics Workshop
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 日本語韻律ラベリング体系「簡易版X-JToBI」の有用性と諸方言への応用
3. 学会等名 社会言語科学会第4回シンポジウム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木成典, 五十嵐陽介, 李勝勲
2. 発表標題 NINJALデータベースを活用した言語研究の実施について
3. 学会等名 言語資源ワークショップ2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 2音節名詞第4/5類に対応する琉球祖語B類は改新であるとする仮説
3. 学会等名 日本言語学会第164回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 白田理人
2. 発表標題 北琉球奄美喜界島小野津方言における韻律的単位 複合動詞を中心に
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「日琉語族内の声調類型論の再構築」2022年度第2回研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hyun Kyung Hwang, Manami Hirayama, Takaomi Kato
2. 発表標題 Perceived prominence and downstep in Japanese
3. 学会等名 Interspeech 2022 (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Haruo Kubozono
2. 発表標題 On the relationship between the tone and the syllable: A moraic account
3. 学会等名 Phonetics and Phonology in Europe (PaPE) 4 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 窪園晴夫
2. 発表標題 一般言語学から見た日本語のプロソディー
3. 学会等名 日本語学会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 窪園晴夫
2. 発表標題 対照言語学の観点から見た日本語のプロソディー
3. 学会等名 Prosody and Grammar Festa 6
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 窪園晴夫
2. 発表標題 コミュニケーション学から見た音声研究
3. 学会等名 関西言語学会第46回大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 窪園晴夫
2. 発表標題 日本語におけるプロミネンスの衝突について
3. 学会等名 Kobe-NINJAL 言語学コロキウム「日本語研究の最前線2」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松森晶子
2. 発表標題 沖縄語首里方言の音節構造の変化と祖語の母音の音価推定
3. 学会等名 国立国語研究所共同研究プロジェクト「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」2021年度前期発表会第6回
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新田哲夫
2. 発表標題 南琉球多良間方言のアクセントと文末音調
3. 学会等名 日本方言研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新田哲夫
2. 発表標題 南琉球池間方言アクセントの動的音韻解釈
3. 学会等名 音韻論フェスタ2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松浦年男
2. 発表標題 (趣旨説明)「九州方言音調の研究」のこれまでとこれから
3. 学会等名 日本音声学会第35回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松浦年男
2. 発表標題 日本語にとって連濁は何者なのか 容認性判断調査{を・から}考える
3. 学会等名 日本語学会2021年度春季大会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤久美子
2. 発表標題 日琉諸語の疑問・不定表現における韻律的現象の類型化の提案
3. 学会等名 日本言語学会第163回大会ワークショップ「日琉諸語の疑問・不定表現をめぐる韻律的現象：類型論的枠組みの提案と通時的考察」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤久美子
2. 発表標題 不定語と不定語を含む句・節における音調の実現について - 西南部九州二型アクセント方言の対照 -
3. 学会等名 日本音声学会第35回大会ワークショップ「九州方言音調の研究」のこれまでとこれから」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Haruo Kubozono
2. 発表標題 From 'Mora' to 'Syllable': Diachronic Changes in Prosodic Organization in Japanese
3. 学会等名 JK28 Satellite Workshop: Experimental Phonetics & Phonology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Haruo Kubozono
2. 発表標題 On the distinctive phonetic feature of word prosody in Kagoshima Japanese
3. 学会等名 Phonology Festa 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松倉昂平・新田哲夫
2. 発表標題 福井県三国町安島方言におけるhadderu《外れる》等の重子音の生起条件について
3. 学会等名 国立国語研究所対照言語学プロジェクトプロソディー研究班オンライン研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 新田哲夫
2. 発表標題 南琉球多良間方言のアクセントの特徴
3. 学会等名 第2回金沢言語学フォーラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松浦年男
2. 発表標題 研究事例紹介 多様な資料を用いた実証研究
3. 学会等名 Covid-19の影響下における方言研究のあり方を模索するWS 第二弾 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松浦年男
2. 発表標題 天草市本渡方言における呼びかけのイントネーション
3. 学会等名 日本言語学会第161回大会ワークショップ「危機方言のプロソディー」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松浦年男
2. 発表標題 九州諸方言の与格助詞に見られる音韻交替
3. 学会等名 国立国語研究所対照言語学プロジェクトプロソディー研究班オンライン研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 琉球語と九州語が共有する分節音における非中央語的特徴
3. 学会等名 シンポジウム「日琉諸方言系統論の展望」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 五十嵐陽介
2. 発表標題 南琉球宮古語伊良部佐和田方言のアクセント体系の初期報告
3. 学会等名 日本言語学会第161回大会ワークショップ「危機方言のプロソディー」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤久美子
2. 発表標題 茨城県高萩市方言における不定語を含む文の音調特徴
3. 学会等名 国立国語研究所対照言語学プロジェクトプロソディー研究班オンライン研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 窪園晴夫
2. 発表標題 日本語のデフォルト韻律構造と単純語の短縮
3. 学会等名 関西言語学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 窪園晴夫
2. 発表標題 日本語におけるアクセントと母音長の中和について
3. 学会等名 Kobe-NINJAL-Oxford言語学コロキウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Haruo Kubozono and Ai Mizoguchi
2. 発表標題 The phonetics and phonology of vocative intonation in Tokyo Japanese
3. 学会等名 19th International Congress of Phonetic Sciences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Jungyun Seo, Sahyang Kim, Haruo Kubozono, and Taehong Cho
2. 発表標題 Interaction between rhythmic structure and preboundary lengthening in Japanese
3. 学会等名 19th International Congress of Phonetic Sciences (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 窪園晴夫
2. 発表標題 甌島方言のアクセント
3. 学会等名 日本言語学会第159回大会ワークショップ
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Haruo Kubozono
2. 発表標題 Word accent and vowel length in the postlexical phonology of Japanese
3. 学会等名 JK27 Satellite Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Haruo Kubozono
2. 発表標題 Interactions between lexical and postlexical tones: Evidence from Japanese
3. 学会等名 6th International Conference on Phonetics and Phonology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦年男
2. 発表標題 福岡方言における音韻句の形成要因の比較
3. 学会等名 日本言語学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦年男
2. 発表標題 日本語諸方言における有声促音の類型論に向けて
3. 学会等名 札幌学院大学言語学談話会第100回記念会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松浦年男
2. 発表標題 天草地方の方言類型論を目指して
3. 学会等名 Prosody and Grammar Festa 4
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yosuke Igarashi
2. 発表標題 Dialect-specific prosodic phrasing in Japanese: With a focus on dialects without lexical tone contrasts
3. 学会等名 6th NINJAL International Conference on Phonetics and Phonology (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yosuke Igarashi
2. 発表標題 Comments to papers in the panel: "Dialectal differences in the rules that determine the accent of Japanese compound nouns"
3. 学会等名 The 3rd EAJS Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新田哲夫
2. 発表標題 南琉球多良間方言のアクセントの弁別特徴と名詞句のアクセント
3. 学会等名 日本語学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 窪園晴夫	4. 発行年 2023年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 314
3. 書名 一般言語学から見た 日本語の語形成と音韻構造	

1. 著者名 平子達也 , 五十嵐陽介 , トマペラール	4. 発行年 2024年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 156
3. 書名 日本語・琉球諸語による歴史比較言語学	

1. 著者名 Haruo Kubozono, Junko Ito, Armin Mester	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 576
3. 書名 Prosody and Prosodic Interfaces	

1. 著者名 Haruo Kubozono	4. 発行年 2022年
2. 出版社 De Gruyter Mouton	5. 総ページ数 235
3. 書名 Word and Sentence Prosody: The Endangered Dialect of Koshikijima Japanese	

1. 著者名 窪園晴夫, 守本真帆	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 288
3. 書名 プロソディー研究の新展開	

1. 著者名 窪園晴夫, 朝日祥之	4. 発行年 2022年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 209
3. 書名 言語コミュニケーションの多様性	

1. 著者名 松浦年男	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 152
3. 書名 自由研究 ようこそ! ことばの実験室(コトラボ)へ	

1. 著者名 仲間博之, 田窪行則, 岩崎勝一, 五十嵐陽介, 中川奈津子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立国語研究所	5. 総ページ数 288
3. 書名 南琉球宮古語池間方言辞典	

1. 著者名 窪園 晴夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 380
3. 書名 一般言語学から見た日本語のプロソディー	

1. 著者名 窪園晴夫, 野田 尚史, プラシャント パルデシ, 松本 曜	4. 発行年 2021年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 328
3. 書名 日本語研究と言語理論から見た言語類型論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	上野 善道 (Uwano Zendo) (50011375)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・名誉教授 (12601)	
研究分担者	松森 晶子 (Matsumori Akiko) (20239130)	日本女子大学・文学部・教授 (32670)	
研究分担者	新田 哲夫 (Nitta Tetsuo) (90172725)	金沢大学・その他部局等・名誉教授 (13301)	
研究分担者	松浦 年男 (Matsuura Toshio) (80526690)	北星学園大学・文学部・教授 (30106)	
研究分担者	田中 真一 (Tanaka Shin'ichi) (10331034)	神戸大学・人文学研究科・教授 (14501)	
研究分担者	五十嵐 陽介 (Igarashi Yosuke) (00549008)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・教授 (62618)	
研究分担者	佐藤 久美子 (Sato Kumiko) (60616291)	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・研究系・プロジェクト非常勤研究員 (62618)	
研究分担者	白田 理人 (Sirata Rihito) (60773306)	広島大学・人間社会科学研究科(教)・准教授 (15401)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	竹安 大 (Takeyasu Hajime) (80585430)	福岡大学・人文学部・准教授 (37111)	
研究分担者	ホワン ヒョンギョン (Hwang Hyun Kyung) (80704858)	筑波大学・人文社会系・准教授 (12102)	
研究分担者	青井 隼人 (Aoi Hayato) (00807240)	東京外国語大学・世界言語社会教育センター・助教 (12603)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 6th International Conference on Phonetics and Phonology	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------